

# 黒坂の歴史が、今明らか

## 黒坂鏡山城下を知ろう会が黒坂の歴史書を発刊

黒坂地区の歴史をひもとこうと活動している黒坂鏡山城下を知ろう会（牧智也会長）が、黒坂鏡山城の歴史を中心に、黒坂の神社や寺院、遺跡などについてまとめた「黒坂歴史めぐり」を6月に発刊しました。

資料の収集や古文書の解読など2年間かけて編集された冊子は、誰が読んでも分かりやすく、ふるさと黒坂により親しみがわく一冊に。地元への反応も上々で会員らは、「発刊して終わりではない。これがかきつけとなり、また新たに歴史を明らかにしていく」と意欲を燃やしています。

### 黒坂の歴史を知りたい

黒坂鏡山城下を知ろう会が設立されたきっかけは、鏡山城址の竹やぶの中から石垣が現れたこと。子どもたちに見た石垣の存在が、人々を動かしました。牧会長は「昔は子どもたちの遊び場になっていた城址に、もう一度目の目を見せたくなったことや、城があつたことは知っていたが、その歴史に詳しくなかったこと。地震で被災し下向きになった気持ちを上向きにならないかという思いで

設立しました」と設立当時を振り返ります。

平成19年に同会を設立。翌年には「城下町黒坂の歴史と自然を訪ねて」という黒坂周辺の歴史や観光名所をまとめたリーフレットを作成し、町関係者や観光客らに配布し好評を得ました。そのリーフレットを基本に、もっと詳しいものが作りたいと会員から声が上が

り、3年前から計画を始めました。編集委員9人が集まり、本格的に編集が始まったのは2年前。会設立後から親交のあった県立博物館から情報提供を受けたり、古文書を読み解いたり1年間資料集めを行い、昨年1年間かけてまとめました。発刊を予定していた6月が迫ると、編集作業は深夜2時ごろまでおよび、しばしば昼間も作業に没頭したとのこと。

完成した冊子はB5版で72ページ。少々の雨でもにじまない上質な紙を使用し、黒坂陣屋絵図をはじめ、写真などをカラーで紹介。城主と家臣を中心に、神社や寺院、遺跡など黒坂の歴史を全8章にまとめ、歴史書のみならず、散策に活用できる一冊です。

西古尚史事務局長は、「編集作業を振り返ると、資料を見たり、地元の人に聞き取ったりの連続でした。また、読みやすく簡潔にまとめるよう努力しました。黒坂だけの歴史をまとめたものは今までなかったため、完成して良かった

です」とほっとした表情を浮かべます。



地元有志の手で現れた石垣の一部

### 地域の反応は上々

冊子を発刊してから、牧会長や西古事務局長のもとには、町内外から問い合わせが相次いでいます。黒坂出身者や親交のある町外の歴史研究者、県立博物館の職員も参考にしたと喜ばれているとのこと。「地域の歴史をまとめている冊子は他にはあまりないようです。県内に向けてよい刺激が与えられたと思います」と牧会長は自信を見せます。

発刊の噂を聞いて、地元の人々が求めに來られ、「親類に送ってやりたい」と思っています。ここから出るのは懐かしい。私もぜひ読みたいですよ」と喜ばれていました。地域の反応は上々です。

### 期待される今後の活動

「城址を整備をすればするほど大変だが、先祖が作ったものが荒

6月に発刊された「黒坂歴史めぐり」  
黒坂・菅福地区の歴史がギュッと凝縮されている



黒坂鏡山城主 赤くあげは  
関一政家家紋「撫角揚羽」  
(赤地ののぼり旗に黄色の家紋)



▲毎年、お盆には城址がライトアップされ、多くの帰省客らが訪れる



れ果ててしまうのは寂しい。歴史をひもとくことはロマンです。歴史が次々と明らかになれば、第2巻を出すことになるかもしれない」と西古事務局長は期待をのぞかせます。鏡山城については、まだまだ謎が多く残されているそうです。

また、今年で3回目を迎える黒坂の夏の風物詩「鏡山城址ライトアップ」も8月14日に開催されます。さらに、城址には東屋の建築が計画されており、現在、道を整備している途中ですが、材料の準備は終わり、盆までに建てる計画とのことです。

同会の活動はこれに留まらず、昨年の秋には山桜1440本を植樹しました。「目指すは吉野の千本桜」とのこと。「昨年の年末から今年の年始にかけての豪雪で枝が折れていないか心配したが、春に様子を見ると枝の先が少し折れた程度。山肌をピンクに染めると楽しんでもらえる」と話します。

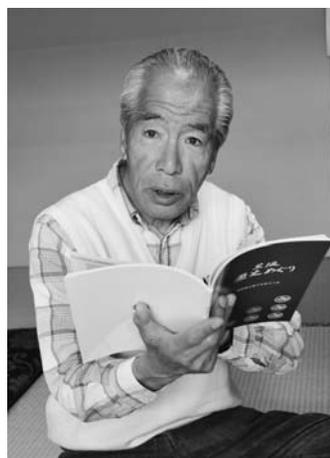
牧会長は、「地域が元気になるれば、うれしい」と声を弾ませます。この冊子を発刊したことが、この会の終わりではなく、地域の歴史を掘り起こしながら、それを生かした活動を行っている同会に今後目も離せません。

「黒坂歴史めぐり」は1冊千円で販売しています。問い合わせは同会事務局長、西古さん（電話7410539）まで。

▶昨年、平井知事が視察。今後の活動を期待した



## ふるさとに誇りを持ってほしい



黒坂鏡山城下を知ろう会事務局長 西古尚史さん

ぜひ、子どもたちの教材にしてほしいと思います。社会に出て、ふるさとのことを話せるように黒坂の歴史を知ってほしい。これをきっかけに、地域に誇りが持てる子どもに育ててほしいと願います。これからも、ふるさと教室など子どもたちの教育に協力していきたいですね。

## 地元の歴史を知ってほしい



黒坂鏡山城下を知ろう会会長 牧智也さん

発刊できたことはうれしかった。皆さんに読んでもらうことが一番。地域の沿革をぜひ知ってほしいです。まだまだ、歴史をひもとく資料が足りないのが現状です。本当のことを知るには古文書が必要。お持ちであれば、提供していただきたいです。よろしくお願いします。

5月22日、町公民館で、黒坂鏡山城下を知ろう会（牧智也会長）主催の、黒坂の歴史講演会が開かれました。講師に、山陰歴史館運営委員長の杉本良巳さんを迎え、天保時代に描かれた貴重な絵図をもとに、江戸時代の黒坂を解説しました。当日は、同会会員や町内外の歴史愛好家らおよそ50人が参加し、解説に聞き入りました。絵図は8畳もの大きさで、当時の様子を知ることができました。講演会に先立ち行われた総会では、同会の活動報告や決算の報告、さらに今年の活動についてなどが協議されました。

## 江戸時代の絵図展示 城下を知ろう会が歴史講演会



普段見ることのできない貴重な絵図に見入る